

平成24年
(2012年)

夏号

大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421～5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙パルプを配合しています

目次

- いま、あらためて、環境こだわり農業…………… 1
- 求む!! 地場の安全・安心野菜…………… 2
- 応援します。農業者が行う6次産業化…………… 2
- これからの湛水管理で安全+高品質な近江米を! …… 3
- 10年後の地域農業の展望「人・農地プラン」の作成…… 3
- エコファーマーマークの使用ルールが変わります…………… 3
- 消費者が注目!! フレッシュないちご農家誕生! …… 4

いま、あらためて、環境こだわり農業・・



美しい琵琶湖（大津・南部地域）をのぞむ（写真：国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所提供）

環境こだわり農業といえば、すでに実践中の方やご存知の方が多いと思いますが、今一度、原点に立ち返り、意義をお伝えします。

環境こだわり農業とは、琵琶湖などの環境に配慮して農産物を生産し、美しい琵琶湖や農村環境を守るとともに、消費者に安全・安心を届けることが目的です。

当管内には右の写真のように、環境こだわり農産物コーナーを設置し、推進している直売所もあり、消費者に好評を得ています。

みなさまもぜひ、環境こだわり農業をはじめませんか。



直売所の環境こだわり農産物コーナー

求む!! 地場の安全・安心野菜

滋賀県の農業は、米・麦・大豆が主で、野菜生産が全国都道府県別順で45位と極めて少なく、野菜の県内自給率は40%しかありません。

一方、農産物直売所や量販店の地場産コーナーだけでなく、市場出荷、学校給食などでも地場の野菜を求めるニーズは高くなっていますが、まだまだ足りていません。特に直売所での販売額は右肩上がりで、地場の野菜を求める動きは着実に広がってきています。

ある直売所の例ですが、地場産率の高い野菜はホウレンソウ・ブロッコリー・トマト・キャベツ・ナスで、90%以上となっています。反対に地場産率が低い野菜はニンジン・ゴボウ・サツマイモ・ジャガイモなど、比較的作りやすい露地物です。

大面積での野菜生産は大変ですが、各地に直売所ができたことにより、少量での出荷もできるようになってきています。新たな生産者の発掘をめざして、各JAで研修会等も行われており、当課も技術面で支援しています。みなさんも野菜づくりにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



応援します。農業者が行う6次産業化

1 6次産業化のねらいは「儲かる農業」

近年、国内マーケットの縮小や農業産出額の低下に伴い、農業所得低下が顕著に表われてきました。地域資源を有効に活用し、農業生産だけにとどまることなく、加工等で農産物の付加価値付けを行い、自らが販売まで手がけることで儲かる農業をめざすのが6次産業化です。

2 有限会社アグリケーション（草津市）の事例から

有限会社アグリケーションは、ねぎを基幹作物として平成9年に設立された農業生産法人です。このたび、平成23年度6次産業化優良取組表彰において、近畿農政局長賞を受賞されました。

土作りにこだわる自社ブランド「養土育[®]」で関東方面の市場を開拓し、カットねぎにも参入されました。オリジナル商品「ねぎサラダ」の開発、生産履歴の公開等、加工品の開発・販売、新たな販路開拓を積極的に行っている事などが大きく評価されました。

3 みなさまもはじめてみませんか

6次産業化を進めるにあたり、専門家である6次産業化プランナー（滋賀県中小企業団体中央会所属）の指導も得ることもできます。関心のある方は、当課に是非ご一報ください。



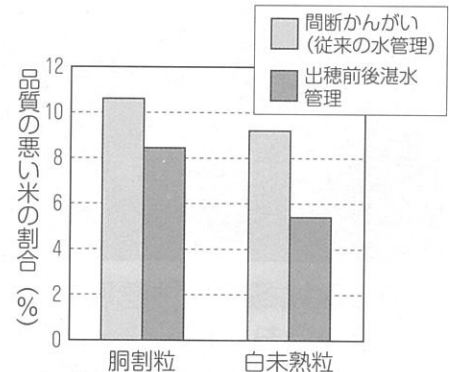
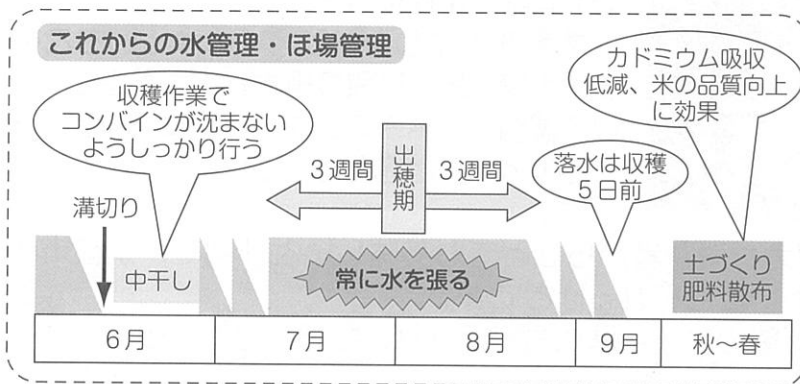
これからの湛水管理で安全+高品質な近江米を！

1 米のカドミウム吸収を減少させます。

米に含有されるカドミウムの基準は0.4ppm以下です。滋賀県の水田の場合、水稻出穂前後各3週間の湛水管理（田に水を張る）や土改材散布などの適正な栽培管理を行えば、基準を超える米が生産される可能性は低いので、これらを実践に行いましょう。

2 米の品質を向上させます

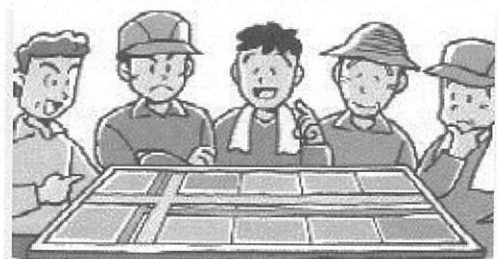
この時期の湛水管理は、胴割粒や白未熟粒などの発生を少なくし、米の品質を向上させる効果があります。



出穂前後の水管理と米の品質との関係
滋賀県農業技術振興センター調査(2006年「コシヒカリ」)

10年後の地域農業の展望「人・農地プラン」の作成

近年、高齢化や後継者の不足、耕作放棄地の増加などの問題が大きくなり、10年後の農業の展望が描けない地域もみられます。皆さんの地域はいかがでしょう。



「人・農地プラン」は、人と農地の問題を解決するための未来の設計図です。集落・地域における話し合いで、①集落のこれからの担い手を決め、②その担い手にどのように農地を集めていくかを決めていく計画です。計画の範囲は集落を基本としますが、地域の実情に応じて複数集落にまたがるエリアも可能です。

プランに位置づけられると様々なメリットがあります。新規就農者への支援「青年就農給付金」や、認定農業者に対する「スーパーL資金の当初5年間無利子化」、農地を提供する（利用権設定など）出し手に対する支援として「農地集積協力金」などです。

プランを作成してみようという方は、当課もしくは市にご相談下さい。

エコファーマーの皆様へ

—エコファーマーマークの使用ルールが変わります—

- ◇マークを使用される時には、届出が必要になりました。
- ◇マークを使用された時は、その使用状況の報告をお願いします。
- ◇表示方法が定められています。右図は一例です。
- ◇また、このマークの使用期限が平成26年3月末までです。

在庫管理には気をつけてください。

※詳しくは滋賀県のHPをご覧ください <http://www.pref.shiga.jp/g/nosan/kankyohozen/ecofarmer-gaiyou.html>



消費者が注目!! フレッシュないちご農家誕生!

○橋本雅人さん（草津市下物町）



橋本雅人さんは、大阪出身で大学卒業後一般企業に就職され、10年ほど前に妻の実家のある草津市に移住されました。滋賀県農業大学校の体験入学でいちごの少量土壌培地耕を知り、就農を決意され、就農科で1年間学ばれました。

農大を修了したH23年4月からいちごの少量土壌培地耕に取り組み、同年冬に「こはる農園」のネーミングで「草津いちご『湖のしずく』」と名付けて直売を始められました。

いちごは冬期には糖度17度を超え、消費者からはとても美味しいと評判で、京都市や高島市からもリピーターとなって買いにこられるほどです。

雄琴のホテルや堅田の居酒屋、近隣のケーキ屋へも出荷され、好評を得ておられます。

○川立裕久さん（守山市小浜町）

現在ビニールハウス3棟（約1,000㎡）で栽培され、「farm（ふぁーむ）ハレノヒ」の代表として直売所「おうみんち」等への出荷や事前予約による直売で販売されています。

「数年前までは東京で仕事をしていたことがあり、当時目にした栃木県産の真っ赤ないちごに強く印象を持ちました。そして、幼なじみが栽培し東京に送ってくれたモリヤマメロンを食べるにつけ、次第に故郷の農業に興味が湧いてきました。」と語る川立さん。

「モリヤマイチゴ」のブランドでも出荷されており、持ち前の几帳面さで厳しい選別や販売に取り組まれた結果、消費者の人気も高く、京都のファンもできました。

「モリヤマイチゴ部会など周囲の皆さんが親切に色々なことを教えて下さり、助けられています。1年目は栽培施設の建設に予定以上に時間を費やしましたが、周囲の協力でほぼ計画通りに出荷できました。今後は、いちご狩り、ギフト対応や加工品への挑戦も視野に入れ経営の充実を図りたい。」と意欲満々です。



●滋賀県農業大学校養成科・就農科のご案内●

このお2人は、H22年度農業大学校の就農科で学ばれ、翌年には認定就農者として農業を開始されました。農業大学校ではH25年度の学生募集を行います。農業にチャレンジしてみたい方は、下記までお問い合わせ下さい。

滋賀県農業大学校 近江八幡市安土町大中503 TEL 0748-46-2551 FAX 0748-46-2552

HP : <http://www.pref.shiga.jp/g/nogyo-nodai/youseika/youseika-top.html>